



国際交流員ウィルペルトのコラム

脱プラスチック Plastikreduktion (プラスチックレドゥクツィオン)



プラスチックは実用的で、伸縮性があり、安価なうえ幅広い用途で利用できる汎用性もあります。ですが、その一方で、海中に入ってしまったら、分解されるまでにレジ袋は20年、ペットボトルは450年、釣り糸は600年かかります。



テイクアウトやデリバリーサービスの特徴とする現代のライフスタイルは、世界中でプラスチックごみのまん延を助長しています。ドイツ政府もEUも、この問題が自然に解決するものではないことを認識して、プラスチック廃棄物の削減に向けて、ますます強力な手段を講じています。

2021年7月以降、EUの「使い捨てプラスチック流通禁止指令」により、ヨーロッパの海岸で最も多い10種類のプラスチック（合わせると、ヨーロッパの海岸の海ごみの70%を占めています！）がEU中で禁じられました。

その中には、プラスチック製のストローやマドラー、綿棒、従来のプラスチックやバイオプラスチック製の使い捨て食器、そして発泡スチロール製の持ち帰り用のカップ、ファストフードの包装と使い捨て食品容器などが含まれます。また、紙で作られた使い捨ての皿やボウルであっても、ほんの一部だけがプラスチックでできていたり、プラスチックの層で覆われていたりするものも同様です。これらはすべて、EU域内の生産も販売も、飲食店などで使用することも禁止です。

使い捨てのプラスチックに終止符を

7月3日以来

このプラスチック製品は禁止されます

					
持ち帰り用 カップ*	使い捨て 食器	ファスト フード用 パッケージ*	飲料用 ストロー	マドラー 綿棒	風船 ホルダー

*発泡スチロール製

ドイツ政府も、独自にプラスチック廃棄物対策の法案を導入しています。連邦政府が掲げる目標は、使い捨ての考え方から脱却し、循環型経済を推進することです。今後2035年まで、リサイクルを強化するだけでなく、修理を促進することで商品の使用期間を延長するために、生産者や小売業者が生産・販売する商品により多くの製品責任をもたせることにしました。

すでに2016年から、プラスチックのレジ袋の値段が高くなり、1枚につき平均25円になっていましたが、さらに2022年からは、業者がお客様に軽量のプラスチック製のレジ袋を売ることさえ禁じました。今、ドイツのお店で何かを買ったら、レジ袋はもらえない上、エコバッグしか売ってられません。他にも、2023年からは、ケータリングやデリバリーサービス、レストランのテイクアウトでも、使い捨て容器に代わる再利用可能な容器を提供することを義務づけることを決定しました。ただし、お客様が持参した容器に飲食物を入れることができる小規模事業者は例外とする予定です。

また、ドイツには何年も前からマイカップの習慣があります。マイカップを持ってカフェやコンビニに行けば、使い捨てのカップを使わずにコーヒーなどを購入できます。日本でも、ローソンやスターバックス、タリーズなどで行われていて、マイカップを持って行くと割引までしてくれるそうです。

日本に来てから、私が出すプラスチックごみの量も頻度もずいぶんと増えてしまいました。しかし、近くのスーパーで買い物をするとき、プラスチック包装を避けたいと思っても選択肢がない場合が多いと感じます。お味噌や納豆など、日本で日常的に食べる食品なのに、プラスチックに包まれていないものを買うことはできません。パン屋さんも、1品1品ビニール袋に詰めます。「そこは何とかしてほしいなあ」とよく思っています。

プラスチックからの脱却は、一朝一夕でできることではないですが、日本の生産者や販売者には、購入頻度の高い商品から順に、プラスチックではない、環境に配慮した包装で提供するようにしてほしいです。そうすれば、日本中のプラスチックごみを短期間で大幅に減らすことができると思います。

地球は、ひとつしかないです。私たちだけでなく、私たちの後に来る子どもたちのためにも、自然に還ることのできない物質で詰め込むのをやめましょう。